



ギャンブル等依存症の症状や改善法について意見を交わしたシンポジウム=甲府・山日YBS本社

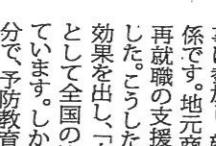
登壇者	
志田 博和氏	県立精神保健福祉センター所長
池田 文隆氏	一般社団法人グレイス・ロード 甲斐サポートセンター長
望月 裕氏	全国ギャンブル依存症家族の会山梨世話人 カウンセリングオフィス・ハートフル所長、 臨床心理士、公認心理師
稻永 澄子氏	トヨタ自動車株式会社 人材開発部人事課長
保坂 真吾氏	山梨日日新聞社論説委員



志田 博和氏



池田 文隆氏



望月 裕氏

「ギャンブル等依存症の理解を深めるためのシンポジウム」

回復支援、正しい知識必要

誰もが陥る可能性がある依存症は、家族を巻き込み、日常生活に支障が生じる病気です。「ギャンブル等依存症の理解を深めるためのシンポジウム」(同実行委主催)が先月、一般社団法人パチンコ・パチスロ社会

貢献機構、県遊技業協同組合助成事業として、甲府・山日YBS本社で開かれました。講演やディスカッションを通し、依存症の当事者や家族の回復支援と、正しい知識を広める必要性について意見を交わしました。

基調講演



した・ひろかず氏 東京都出身。精神科医。2007年から山梨県立北病院に勤務し、思春期病棟、アルコール依存症治療病棟の主任医長を務め、県立中央病院精神科部長を経て、21年4月から県立精神保健福祉センター所長。日本精神神経学会専門医・指導医。

「ギャンブル等依存症について」

県立精神保健福祉センター所長
志田 博和氏

「依存症」と診断する基準の一つは、身体への悪影響の有無です。アルコールや薬物の過剰摂取、過食、拒食が進み、健康状態が悪くなっている場合は依存症が疑われます。もう一つはゲームやギャンブルといった依存対象へのめり込み、勉強や仕事など、社会的に望まれる行動が取れない状態にあることです。

しかし本人は「たまたま」「今回だけ」と依存状態を受け入れず否認します。金銭や家庭崩壊、暴力など

の問題も過小評価し、現実を認めません。指摘すると逆手に取られてしまいます。その結果、周囲が巻き込まれ、トールができない状態が依存症の本質です。従って、単に杖を取り上げるだけでは解決しません。リハビリにより杖がなんでも生きていけないという状態が、依存症の本質です。

依存症への危険要素はあります。

依存症への危険